



管理、育成環境の向上及び治山、治水、砂防対策等を進めるとともに、・・・土地利用を進めます。」という書き方では、環境保全という理念が全く無視され、開発優先というように読みとれてしまいます。従って上から5行目の文に引き続き以下の文を加えて下さい。「これらの優れた環境、景勝地を保全すると共に地域文化の発展と活性化を目指した対策を行います。」

なお防災対策に関しては、国土交通省も述べているように「ハードの限界を前提に減災対策を考える」ように変わってきております。この流れを無視して治山、治水、砂防などに頼りすぎると松本市の首を絞めることとなります。

## — 2 . ウの梓川下流域ゾーンについて —

p19の下から7行目に「そこで、森林地帯・中山間地は、総合的な治山・治水・砂防対策を進め・・・」とありますが、この様な書き方をすると開発にあたって治山・砂防・治水対策を実施すれば災害が起こらないというニュアンスになります。これでは過去の災害から学んだことになりません。

過去の大きな災害例を見れば分かりますとおり、砂防ダムなどのハードの抑制能力以上の土石流が出ることで大きな災害になっている事の方が多いことが分かります。砂防行政が始まっておよそ100年くらい経ちますが、砂防整備率は全国平均で20%不足です。膨大な時間と財政を使ってもこの程度です。牛伏川の砂防整備率は86%ですが、2004年度の大雨で2箇所の施設が土石流にやられました。元々危ないところに土地利用を広げればこの様な結果になってしまいます。国の「土砂災害防止法」や県の「信州・長野県における土砂災害対策のあり方」が作成された経緯を考えるべきです。

人間の力では解決できえないところまで開発を広げると手痛いしっぺ返しを被る事になります。

急傾斜地直下や沢筋は土石流の通り道なることを前提に土地利用を計る事が何よりも大切なことです。

従って次のような文を加えて下さい。「災害に繋がるような土地利用を止め、ハードの限界を前提とした、できうる限りハードに頼らないような土地利用を推進する。場合によっては、危険地帯からの撤退に補助金を出すことなどで健全な土地利用を進める。」

p25の「土地利用構想図」では「周辺都市区域」として「宅地化を推進」とあります。総合的な治水は周辺市街地でも必須項目ではないでしょうか。

最近の降雨状況や日本各地に頻発している平地での洪水は数百年に一回起こるといわれる豪雨によって生じています。基本高水流量に従って河川整備がなされたとしても、それを超える流量には対応できません。また基本高水流量に至らなくても、土砂の移動の仕方や洗堀状況によっては、堤防の越流や決壊が起こります。過

去に決壊、洪水を繰り返し、大きな被害をもたらした河川流域やその様な可能性が高い地域を従来のような商業・宅地開発していくのではなく、溢れることを前提とした防災対策が必要になります。この事を考慮して都市計画の中に組みこんでいくのが、これからの「新たなる松本のまちづくり」ではないでしょうか。

「平成18年3月発行」の「松本市総合計画（新たなる松本のまちづくり）」をご参照ください。そのp98に興味深いアンケート結果があります。「自然とふれあえる場所に恵まれていると思う市民の割合」が80.5%と高いのに対し、「周囲の自然や農地とのバランスがとれた開発が行われていると思う市民の割合」は27.5%です。非常に残念な結果です。

周辺市街地は規模が小さくても防災面から、そして自然環境面からみても大変重要な所であり、様々な配慮が要求されます。そこで、周辺市街地に関しては上記の総合的な治水に必要な場であるとともに「身近な自然とふれあえる場」としての位置づけをしてください。そのためには周辺市街地の身近な自然を重要視しなくてはなりません。市街地とその周辺に水田、畑、公園、小河川、緑地などが点在することは、ヒートアイランド緩和、安らぎの町づくり、温暖化対策、総合治水対策、食糧生産等々の対策となり、結果的に住みやすい環境づくりに繋がっていきます。総合的対策とは、こういった事が融合されたものではないでしょうか。

---

### — 3 . 環境保全・景観対策の推進 —

P23(6)の様な考え方は非常に大切なことです。環境保護と開発は相反する要素を持っていますが、両立することによりより一層豊かな生活環境をつくることに繋がります。是非様々な政策との整合性をつけて欲しいものです。

---

### — 終わりに —

松本市民にとって住みよいまちは、都会に住む人たちからも「魅力あるまち」と思われるものです。そのためには、近年日本のどこにでもあるような没個性的な開発をやめ、ほんとうにこの恵まれた自然と共生するまちづくりをめざしたいものです。この大綱の基本方針に沿う土地利用の実現に向けて更に充実した町づくりが実行される事を熱望いたします。

以上